

なかたい 中平遺跡 現地説明会資料

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
令和3年11月3日

はじめに

中平遺跡は九戸郡野田村大字野田第22地割138番地1に所在する遺跡です。

本調査は野田小学校建設事業に伴って行われた記録保存を目的とする緊急発掘調査で、7月から実施してきました。今回の調査区は県指定史跡「野田^{のただてあなじゅうきよとぐん}竪穴住居跡群」(昭和29年)の北東側に位置しています。

遺跡は北東方向に延びる標高約50mの丘陵上に立地しています。調査区内では尾根の頂部、そこから北西側と南東側に向かう緩斜面を確認しています。これらの地形は当時の人々の生活を反映していることが分かりましたので紹介していきます。

見つけたもの (10月25日現在)

縄文時代前期 (約6,000年前のムラ)

尾根の頂部から斜面にかけて竪穴住居が建てられていました。住居の形は2種類あり、どちらも隅の丸い正方形と長方形のものが見つかっています。

たてあなじゅうきよ おと あな
竪穴住居 20棟 陥し穴 3基
土器、石器数点



縄文時代中～後期 (約4,000年前の狩り場)

斜面を中心に狩り場として利用されていました。陥し穴は2基で1組となる形で見つかっています。また、集落の一部を構成するものも確認しています。

どこう おと あな
土坑 (貯蔵穴など) 6基 陥し穴 31基
石器 180点



平安時代 (約1,100年前のムラ)

尾根の頂部に竪穴住居が建てられていました。これらは埋まっている土から、ほぼ同時期に存在していたものと思われる。時期については十和田a火山灰の降下、915年より古いことが分かりました。

たてあなじゅうきよ どこう
竪穴住居 11棟 土坑 4基
はじき つき かめ
土師器 坏と甕など



昭和40年、岩手大学草間俊一先生による分布調査

●: 住居と思われる凹みの跡で180箇所以上確認されています。

時期不明

時期を特定できないものも見つかっています。
焼土遺構 1基 土坑 22基

わかったこと

今回の調査からは、縄文時代から平安時代における人々の生活の痕跡を見つけることができました。各時代の成果は以下のとおりです。

・縄文時代前期

見つけた竪穴住居の棟数からは遺跡が居住地として何度か利用されていることが分かりました。簡易的な住居の造りや生活道具の小ささから、住居はキャンプで用いられるテントに近い建物で、短期間の利用であったと思われます。

・縄文時代中～後期

この時期には狩り場として利用されていることが分かりました。周辺にも多くの陥し穴が見つかることから、その活動範囲は広範囲に及んでいたようです。また、それ以前には貯蔵穴が作られていることも分かりました。周辺にはそれとセットとなる住居があり、集落が営まれていたと思われます。

・平安時代

尾根の頂部で見つけた住居5棟は、ほぼ同時期に存在していたことが分かりました。この住居は丘陵の先端部にも確認できることから、10棟前後からなる集落が作られていたと思われます。

このように同じ地形であっても時代ごとで利用方法に違いが見られました。今後の調査及び整理を通じて、遺跡の理解を深めて行きたいと思っております。

中平遺跡 遺構配置図

①縄文時代中期 貯蔵穴 (左)・陥し穴 (右)



②縄文時代前期 竪穴住居



③縄文時代前期 竪穴住居



④縄文時代前期 陥し穴



⑤平安時代 竪穴住居



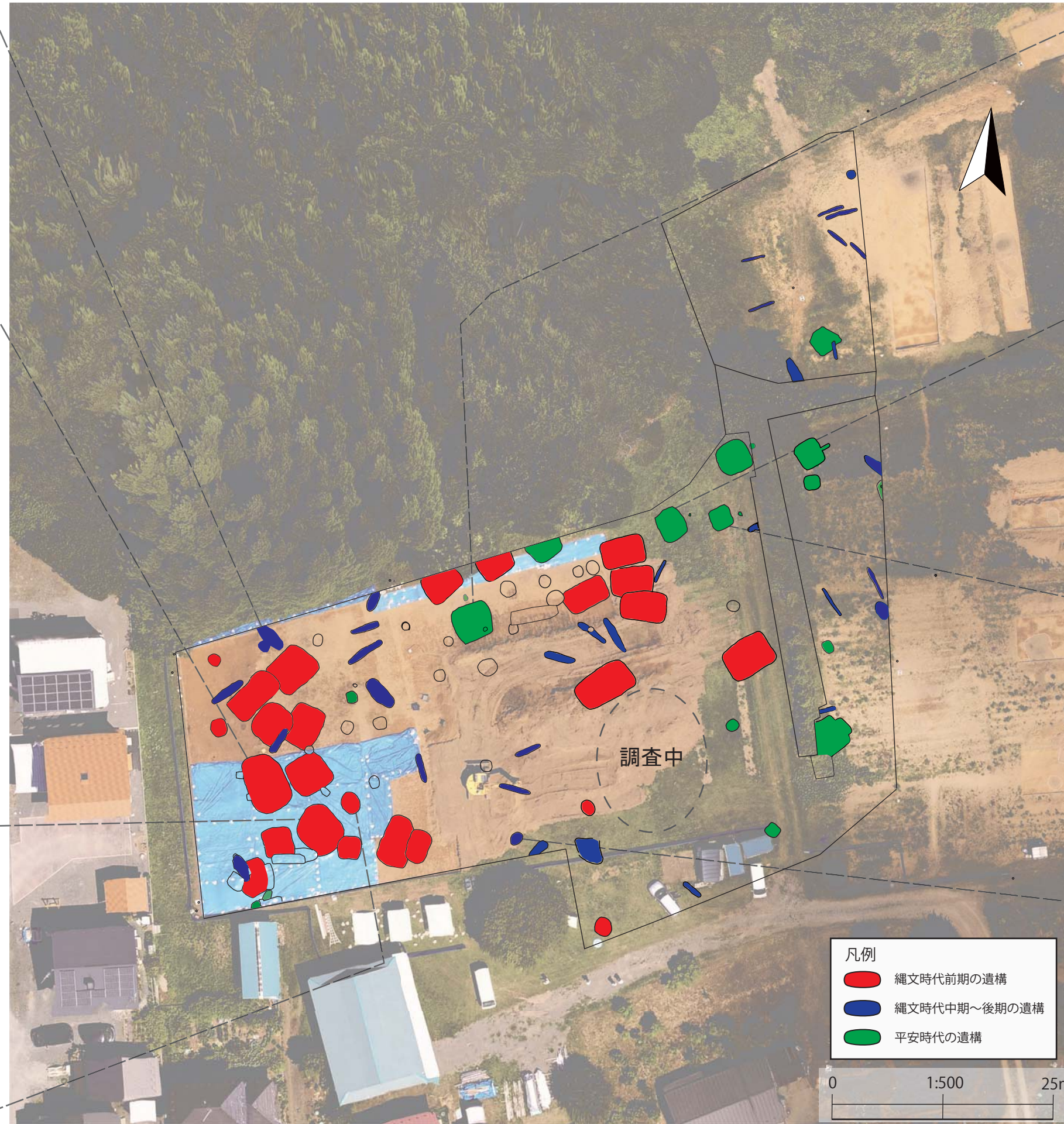
⑥平安時代 竪穴住居 (焼失)



⑦平安時代 竪穴住居 (カマド)



⑧縄文時代中期 貯蔵穴 (石器集中)



凡例
 ● 縄文時代前期の遺構
 ● 縄文時代中期～後期の遺構
 ● 平安時代の遺構

0 1:500 25m